

The Art of The Da Vinci Code

レオナルド・ダ・ヴィンチ「天才の世界」へ

小説「ダ・ヴィンチ・コード」は、パリ〜ロンドンを舞台に、主人公ロバート・ラングドンとヒロインであるソフィー・ヌーヴの逃亡劇のスタイルをとったミステリーだ。しかしそれだけではない。この小説の中で、彼らは地図上の旅だけでなく、有名な芸術作品に隠された秘密や暗号を解明、美術の歴史を辿る旅にも出ている。各登場人物の回想に触れながら進行していく過程に出現するいくつもの興味深い暗号は、やがてこの物語の根幹をなす歴史的なテーマへと結実していくのだ。このコーナーでは、天才レオナルド・ダ・ヴィンチの名作の数々を、彼の歴史とともに、「ダ・ヴィンチ・コード」からの抜粋によって紹介。これで、空前の大ヒット小説の映画化を、より一層楽しむことができるはずだ。

1452年4月15日にイタリア中部トスカニア地方の村、ヴィンチに生を受けたレオナルド・ダ・ヴィンチは、ルネサンス芸術における歴史的名作を数々生み出しただけでなく、溢れんばかりのセンスと情熱によって、建築、医学、科学、解剖学、軍事学などあらゆる分野で才能を発揮した稀有の天才でもあった。

1468年、16歳のダ・ヴィンチは、父セル・ピエロの紹介で、フィレンツェ、メディチ家の注文を独占していた工房ヴェロッキオ工房に修行に入る。そしてボツティネリなどと共に芸術を学び、25歳になると、数人の弟子を引きつれ自らの工房を構えた。そんなダ・ヴィンチに舞い込んだ最初の依頼がサン・ドナード修道院の「東方三博士の礼拝」だった。しかし、遅筆で有名なダ・ヴィンチは、作品を未完成のまま、ミラノへと旅立ってしまう。

1482年、30歳のダ・ヴィンチはミラノを支配していたルドヴィコ・スフォルツァに呼び寄せられる。当時、試練の時期を迎えていたダ・ヴィンチがルドヴィコへの自薦のために書いた、武器や大砲、建築物などの設計図は、現在ではその万能ぶりを語る貴重な記録となっている。1483年にはサン・フランチェスコ・グランテ教会付属の同信会から、無原罪懐胎を表す木彫りの礼拝像である聖母子像を覆い隠すための板絵制作の注文を受ける。だが完成させた板絵「岩窟の聖母」は、依頼主との間で構図や主題の考え方に對する相違を巻き起こし、筆句の果てには全巻トラブルなどによる裁判沙汰にまで発展した。1480年代後半は、ダ・ヴィンチがあらゆる学問の知識を手帳にまとめ始めた時期。「万能の天才」の象徴的な時期であり、彼の最も有名な素描と呼ばれる「ウイトルウィウス」に似せたプロボーションの素描も、この時期に描かれたものだった。その後、ダ・ヴィンチのバトロネ、ルドヴィコは、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会の食堂の壁画をダ・ヴィンチに描かせる。これが

「最後の晩餐」。「ダ・ヴィンチ・コード」のミステリーの中で最も象徴的かつ結末への道筋を明確に演出するこの歴史的名画は、ダ・ヴィンチの代表作のみならずルネサンス芸術の象徴的な作品と位置づけられている。その後、ダ・ヴィンチは、ルドヴィコの失脚と共にミラノを去る。1499年になると芸術家としてではなく、イタリア統一を目指すロマーニャのチエーザレ・ボルジアに建築・軍事技術家として招かれ、その後、再びフィレンツェに戻る。当時に彼が作成した軍事戦略の為の地図は、今も残っている。

1503年からのダ・ヴィンチは芸術家としての全盛期を迎える。まず、ダ・ヴィンチ自身が最後まで手放さなかった作品で、のちに世界で最も有名な絵画となる「モナ・リザ」に着手。小説「ダ・ヴィンチ・コード」でも、カバリーを飾るこの作品は500年以上の間、その微笑について数多の論争を生み出した謎の多い名作だ。それと同時に、フィレンツェ政府寄大会議場の壁画制作によって、ダ・ヴィンチ、ラファエロとともにルネサンス3大巨匠の一人と位置づけられるミケランジェロと直接対決をすることとなる。その結果、解剖学を基に、兵士の姿を生々しく描いたダ・ヴィンチの「アンギアーリの戦い」はミケランジェロの「カッシーナの戦い」よりも注目を集める。そして、若きミケランジェロは、それをきっかけにローマへと去っていくこととなる。

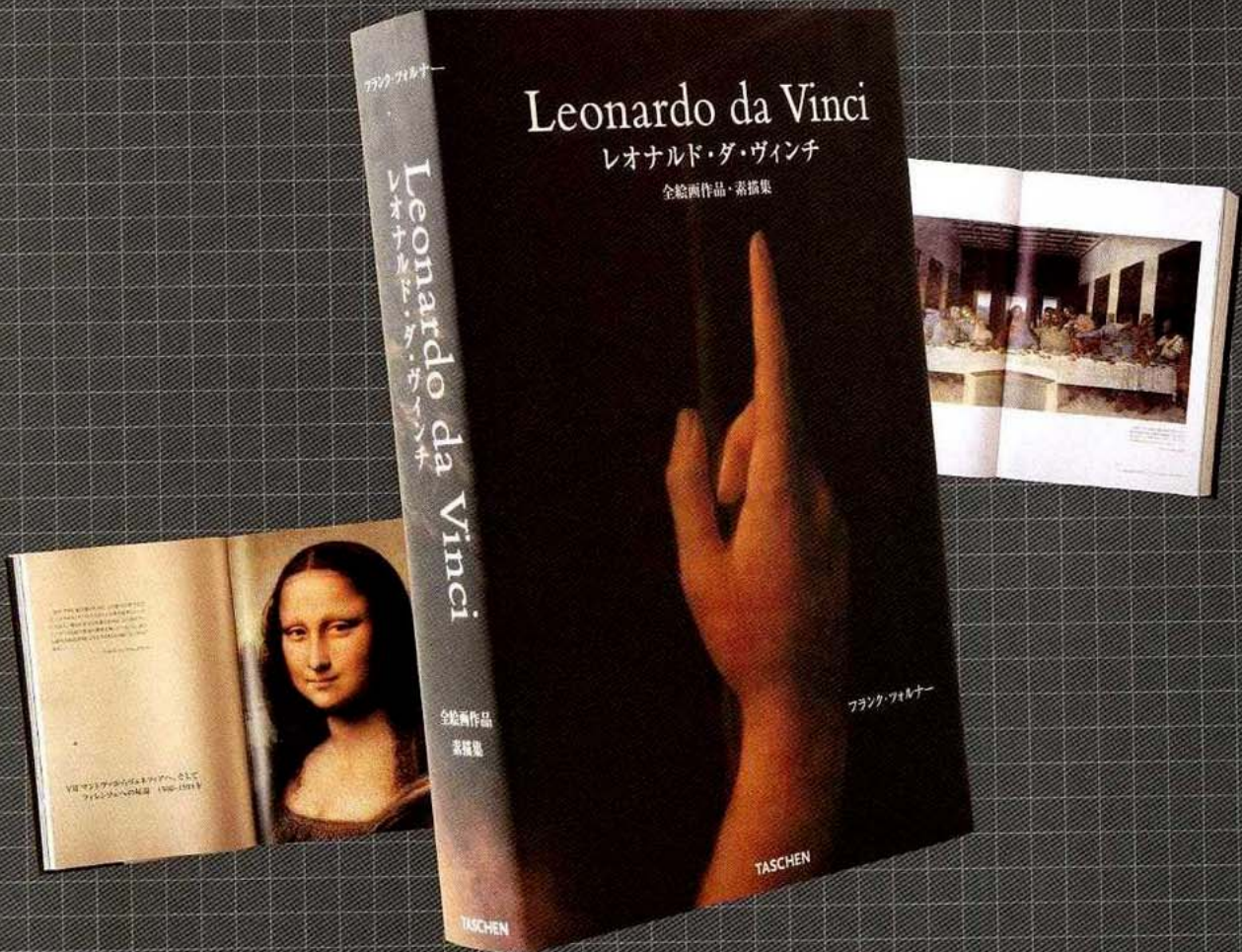
1506年、「モナ・リザ」完成以降のダ・ヴィンチは、バトロネを求めてミラノ、ローマなどを転々とし、最後にフランスの中部アンボワーズ郊外のクルーにある住居にたどり着いている。当時、芸術の保護に熱心だったフランソワ一世のもとで、この地方において穏やかな晩年を過ごしたダ・ヴィンチは、1519年5月2日、67歳で永眠。ダ・ヴィンチは、最後まで「モナ・リザ」を含む3枚の絵画を手放さなかったという。

The Da Vinci Code Art

「レオナルド・ダ・ヴィンチ 全絵画作品集・素描集」
 フランク・ツオルナー著 タッシェン・ジャパン株式
 会社、定価2万6250円（税込）レオナルド・ダ・ヴィ
 ンチの全生涯にわたる制作活動をたどったうえで
 34点の作品の図版により、現存する作品と消滅し
 てしまった作品を網羅的に考察。また、663作品の
 素描を大型のカラー図版で掲載。ルネッサンス美
 術研究の第一人者ライプチヒ大学教授フランク・ツ
 オルナー氏が「万能の天才」の芸術的偉業に対し
 新しい解釈を展開している。

The Artistic Expressions of Leonard da Vinci

天才ダ・ヴィンチの全作品集は、本当に重かった！



「ダン・ブラウン氏の書いた『ダ・ヴィンチ・コード』は単なるフィクション小説であり、キリストの人物像や、新訳聖書に登場する人物に関してまったく何の見解も示していない」と声を荒げるのは、レオナルド・ダ・ヴィンチ研究の第一人者、フランク・ツオルナー教授。彼は「ブラウン氏の著に描かれている、ダ・ヴィンチとその絵画に対する解釈の90%はまったくナンセンスなものだ」といい切るほど。

ダ・ヴィンチ芸術の権威である彼の編纂した画集は、「現在、最も正確かつ最も高質な画集」と評されている「レオナルド・ダ・ヴィンチ全絵画作品集・素描集」。各国で翻訳され多くの美術ファンを虜とした「ダ・ヴィンチ本」の決定版なのだ。

高さ44cm×幅29cm×厚さ7cm（計695ページ）という重厚かつ、実際、持ってみるとやたらと腰にくるこの画集は、その重さに負けないぐらい内容も濃厚な作りになっている。稀代の天才芸術家の全ての仕事を網羅しているだけでなく、彼の人生に触れながら、その生み出した深遠な「謎と美」について、真っ向から向かい合い、検証、解説している名書でもあるのだ。

そう考えると「人間考察が弱い」と指摘される「ダ・ヴィンチ・コード」を、ツオルナー氏がお怒りになるのも、ごもつとも、とはいえ、そんな彼もが読んでいるところがあるのだから……。

なにはともあれ「ダ・ヴィンチ・コード」から美術にちゃんと向きあいたく、なった方には絶対オススメの二冊が、このダ・ヴィンチ画集なのです。